

PET



犬を飼うのに必要なもの

●犬小屋

《屋外で飼う場合》

犬舎は日当たりと風通しがよく、湿気の無い場所に設置してあげましょう。成犬になっても頭が天井につかず、中で方向転換できるくらいゆとりがある大きさを選ぶことが大切です。

移動式犬舎

小・中型犬を家庭で飼う場合は、季節毎に快適な場所に移動できる移動式犬舎がおすすめ。日曜大工で手作りすることも可能だが、屋根や床が取り外せて掃除が楽にできるタイプなど、様々なデザインのものが市販されている。

固定式犬舎

中型犬以上でスペースにゆとりがある場合は、運動場つきの固定式タイプにするのも手。小屋の床はコンクリートにしてスノコなどを敷いておくと掃除が楽。運動スペースはできるだけ土にして、成犬になっても飛び越えられない高さのフェンスを設置する。

《室内で飼う場合》

部屋の隅など犬が落ち着ける場所に寝るためのスペースを作ってあげましょう。

室内犬舎

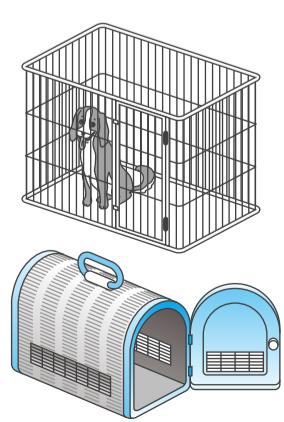
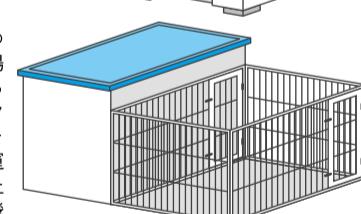
インテリア性の高いベッドや犬舎がたくさん市販されているので、犬の大きさに合わせて選ぶといい。子犬のうちはダンボール箱などにタオルや古布を敷いたものでもよい。

サークル

庭やベランダなどで軽い運動や日光浴をさせたい場合は、サークルを使うと安心。

《移動用ゲージ》

旅行などに出掛ける場合にはゲージに入れるのが鉄則。慣れていないとおとなしく入らないことがあるので、日頃からゲージに入る方に慣らせておきましょう。室内で飼う場合は、掃除をする時や犬が嫌いなお客様が訪ねてきた時などにも使えます。



●トイレ、ペットシート

室内で飼う場合の必需品。トレイなどでも代用できますが、市販の犬用トイレを使うと便利です。トイレにトイレ砂かペットシート、あるいは新聞紙などを敷いて用い、汚れたら交換するようにします。ただし、犬は尿のニオイがある場所に排泄する習性があるのでニオイを少し残しておくのがポイント。あらかじめ、尿のニオイをつけたトイレ用シートも市販されています。また、犬用のアンネパンツや生理帶、ナプキンも市販されています。牝犬を室内で飼う場合、汚れが気になる時は利用するとよいでしょう。



●首輪

生後1カ月くらいから、首輪、引き綱に慣れさせることが大切。まずは、幅が広くて軟らかいナイロン製の子犬用首輪を選びましょう。子犬は成長が早いので首がつきく縮まらないように注意。指が2~3本入るくらい余裕を持たせて締めるのがポイントです。その後は成長に応じてサイズを選んでください。



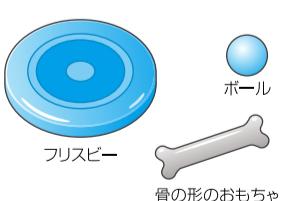
●引き綱、クサリ

引き綱やクサリも犬の大きさ、引っ張る強さに合わせて選びます。これらは、日常つないでおく用と散歩用との2種類を用意しておくとよいでしょう。



●おもちゃ

必需品ではありませんが、いろいろな玩具が市販されています。ボールや古くなつた靴などを与えてやっても喜びます。



●ヒーターマット、クーラーマット

寒い季節は、電気で保温するベット用ヒーター、夏は、特殊ボリマー入りの保冷剤を使ったクーラーマットがお勧め。これは、水につけるだけ数時間~数日、冷温を維持するもので、繰り返し使えるので経済的です。



ドッグフードの種類と与え方

ドッグフードは、どのタイプも犬の成長に必要な栄養素をバランスよく配合して作られています。それぞれ離乳食やダイエット食など、様々な種類が揃っているので、犬の年齢や体調に合わせて選んで与えましょう。食事回数は6カ月くらいまでは1日4回、それ以降は1日1~2回を目安に。量はそれぞれの製品の給与法にしたがってください。

●ドライフード

経済的で保存性もよく、栄養バランスも高い。水分が含まれていないので、必ず、新鮮な水と一緒に与えること。

●セミモイストフード

25~35%水分を含んだ半生タイプで、食べやすく、犬の好みに合う。ただし、高カロリーなので与え過ぎには注意を。

●缶詰

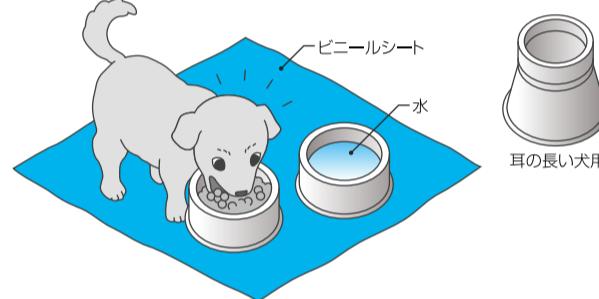
犬が最も好むフードだが他よりも高価。開封後は別の容器に移してラップをし、冷蔵庫で保存して2日くらいで使い切るようにする。

●おやつ類

歯を丈夫にし、ストレス解消効果もあるガムや乾燥肉、ビスケットなど様々な種類が市販されている。ただし、犬の要求のまま与えるとしつけができる、栄養バランスを崩したりするので注意。

●食器、水入れ

安定性がよく、洗いやすいものを選びましょう。プラスチック製は安いカラフルですが、耐久性を考えるとステンレス製がおすすめ。サイズは、犬の大きさや食べる量に合わせて選びます。また、鼻の長い犬は深め、短い犬は浅めに。耳の長い犬用に、耳が食器に入らないように工夫された食器などもあります。



美容と健康のための手入れ

●ブラッシング

ブラッシングによって犬の健康状態をチェックしたり、ブラシの刺激で皮膚の血行をよくするほか、飼い主とのスキンシップをはかり、命令にしたがってじっとしているしつけの習慣をつける、など様々な意味合いがあります。子犬の頃から習慣付けて1日1回はブラッシングの時間をとるようにならしめましょう。



スリッカー

長毛種の毛のもつれや毛玉を取りためのもの。



カネグシ

目の粗いタイプ、細かいタイプ、その両方を備えたタイプがある。大きさも各種ある。



ピンブラシ

ブラッシングの仕上げ用。

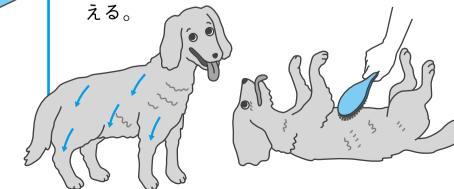


《短毛種へのブラッシング》

最初は、頭部から背中にかけて毛並みにそって軽くブラッシングする。慣れたら毛の流れにさからってのブラッシングと組み合わせて行う。何日に一度はブラッシングのあと、絞りタオルで全身を拭いてやるといい。

《長毛種へのブラッシング》

スリッカーで毛並みにそってブラッシングしてから、ブラシをかける。毛玉ができる場合は無理にひっぱらず、手で少しづつほぐしていく。それでもほぐれない場合はハサミでカットする。腹部は犬を仰向けにしてブラッシングするといい。ブラシをかけ終えたら全身を絞りタオルで拭いてから、ピンブラシでブラッシング。最後にカネグシで毛並みを揃える。

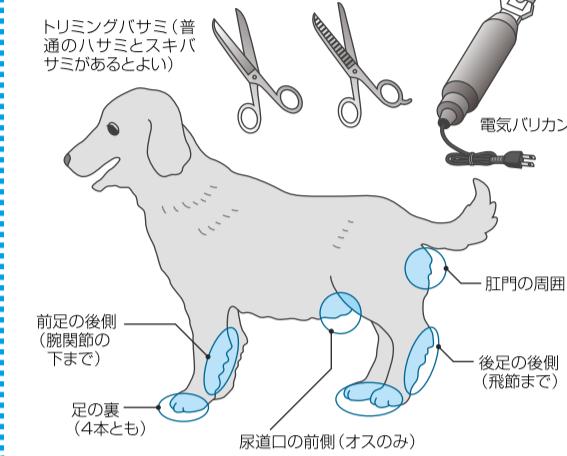


愛犬との快適生活

One Point Advice

家庭でできる健康トリミング

美容のためのトリミングはプロのトリマーにまかせた方が無難ですが、清潔さを保つためのカットなら自分でできます。トリミング用ハサミは縦にしてカットしていくとトラ刈りを防げます。横にして使うのは長毛種のソスをそろえる時と、足の裏の毛をそろえるくらいにどめましょう。バリカンを使う場合は、皮膚を傷めないように、必ず斜めにして毛の流れと逆に下から当てるようにしてください。



●シャンプー

月に1~2回はシャンプーを。念入りにブラッシングしてから、35°Cくらいのお湯を張ったタライに立たせて、尾の方からお湯をかけて全体を濡らし、犬用シャンプー液で全身を洗います。ノミが気になる場合はノミ取り効果のあるシャンプーを使うとよいでしょう。充分泡立てて洗ったらお湯でよく流してからリンスをし、それもよく流してから、タライから出します。その後はタオルでよく拭いてください。冬場や長毛犬ならばドライヤーで乾かしてもよいでしょう。毛が乾いたらブラシで毛並みを揃えるとともに、耳に残った水分を綿棒で取ってやります。



●歯みがき

犬のエナメル質は強いため、毎日の歯みがきは必要ありませんが、口の中に手を入れられることに慣らせるためにも、子犬のうちから3~4日に一度は歯みがきをする習慣をつけましょう。最初は手にガーゼを巻いて歯垢を取って、歯ぐきをマッサージ。それに慣れたら幼児用か犬用の歯ブラシを使って磨きます。この場合、歯みがき粉は不要です。



●耳そうじ

耳の汚れを放置しておくと匂いが悪くなるので注意を。汚れている部分にオリーブ油を薄く塗って一晩置いて汚れを浮かせてから綿棒で拭うときれいになります。耳の中にも毛が多い長毛種の場合は、耳の中の毛をハサミで切るか少し抜いておくと手入れが楽になります。



●爪きり

運動をあまりしなくなった老犬や、室内で飼っている犬は爪が伸びやすいため、月に1~2回ほど爪切りをしましょう。血管や神経部分を傷つけないように気をつけて犬用の爪切りで切り、ヤスリで磨いて丸く仕上げます。シャンプーの後なら、爪がわらわらくなっているので手入れが楽です。

